

## 福士成豊の雇い主・箱館の商人 アレクザンダー・P・ポーターの 生没年月日、および来日前の履歴

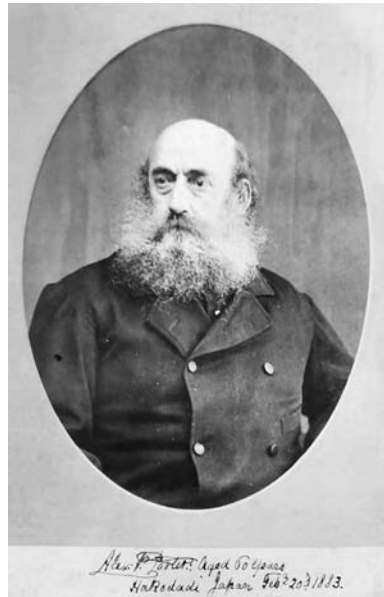
八木谷 涼 子

1859年、上海のデント商会 Dent & Co. の代理人として箱館にやってきた商人ポーター Alexander Pope Porter は、新島襄脱国の協力者・福士屋卯之吉（福士成豊）の雇い主として知られている。また、新島は1887（明治20）年に函館を再訪した折りポーターに再会したが、当時は見る影もない貧窮のなかにあったことを八重夫人が回想している（文末 p.118 「P 文献」1、3）。

### ■生没年月日

そのポーターの正確な生没年月日が判明した。

英国における1845年の船員登録記録によると、1823年2月20日、ウィルトシャ Wiltshire のソールズベリ Salisbury で出生。ポーターは60歳のとき肖像写真（右/P 文献



ニュージーランドのキング家（ポーター長女の嫁ぎ先）に伝わるポーターの肖像写真。

「P 文献5」p.206掲載のものと同一。  
（Ms Robyn Ackers 提供）

福士成豊の雇い主・箱館の商人アレクザンダー・P・ポーターの生没年月日、および来日前の履歴

1、4、5) を撮影しており、その台紙には「Feb 20 th 1883」と日付が記されている。まさにこの日に還暦を迎えたわけだ。新島襄の脱国当時、彼は41歳だったことになる。

死亡した日時や場所も、日本語および英語による死亡届により明らかになった。1893（明治26）年11月17日、場所は東京の京橋区南小田原町四丁目六番地である。日本語の「死亡証」<sup>2)</sup>（図1）によると、死因は老衰兼下痢病。

ポーターの墓碑は東京の青山霊園に現存しており（P 文献2ほか）、行年「68」、死亡年は「1891」とくっきり刻まれている。したがって従来1891年没とされてきたが、これについては西島照男氏が著作のなかで1893年では

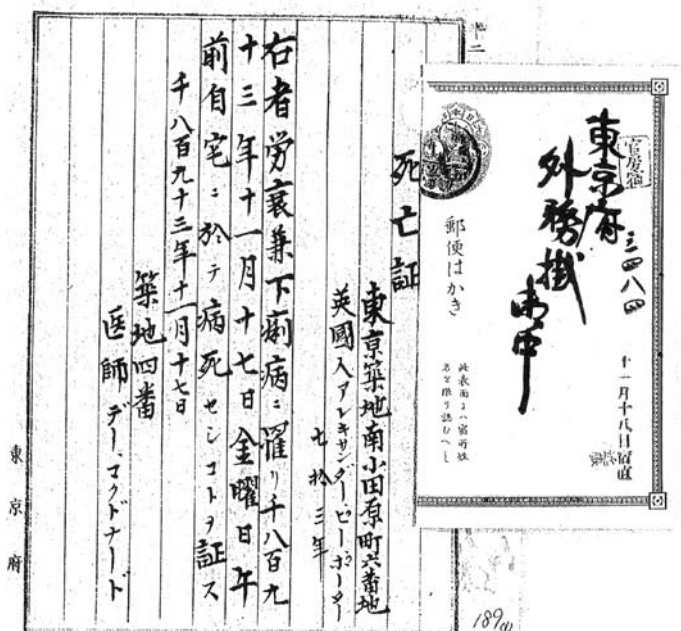


図1 築地居留地4番地在の医師 D. マクドナルド Davidson Macdonald によるポーターの死亡診断書（東京都公文書館蔵。注2参照）

ないかと疑問を呈していた（P 文献 5、13 章）。今回、東京府と東京の英国領事館に提出された 2 枚の死亡届を確認できたことによって、西島氏の指摘が正しかったことがわかった。つまりポーターの墓碑にある死亡年は、2 年早いのである。あまりに異例な手違いであり、墓を青山に見出した手塚竜磨氏が「ポーターの遺骨は病死してから二年後」に葬られたと解釈した（P 文献 2）のも無理からぬところである。実際にはポーターの埋葬は死亡の翌日<sup>3)</sup>で、土葬だった。行年 70 歳。

## ■死亡地と息子たち

ポーターが死亡した南小田原町は東京の築地居留地に隣接しており、外国人の居住が許されたいわゆる「内外人雑居地域」だった。同住所で彼と同居していた家主の名は、清水重光<sup>しげみつ</sup>。ポーターは函館において日本人の内妻とのあいだに 3 人の子（一女二男）をもうけており、長男がこの重光（英名 Thomas）であった（P 文献 4、5）。

東京都公文書館が所蔵する「外国人家屋貸渡届」によると、重光は明治 26（1893）年 9 月 21 日から 1 年間の契約でポーターを自宅に住ませた<sup>4)</sup>。また重光は同番地に 28 坪 5 合（約 94 m<sup>2</sup>）の木造瓦葺き平屋建ての家を新築している（届けは同年 10 月 20 日付<sup>5)</sup>）。つまり、ポーターは生涯最後の 2 か月ほどを長男の建てた家で過ごしたわけで、晩年の状況は新島夫妻の訪問当時よりもかなり上向いていたことがうかがえる。

重光は店子であるポーターの埋葬一切を引き受けたが、当時日本の役所に提出された書類には、彼らが親子だったことを示す記述はない。その記載があるのは、12 月 12 日付で東京の英国領事館に出された英文の死亡届<sup>6)</sup>である。届出人（informant）は「Tom B. H. Porter reputed son of the deceased（故人の子息とされるトム・B・H・ポーター）」とあった。Tom は Thomas の略称で、重光をさす。ポーターの年齢は 71、職業は商人（Merchant）と記されていた。

このとき、ポーターの末子で次男にあたる清水重隆<sup>しげたか</sup>（英名 Frederick）はどこにいたのか。手がかりとなる書類が、やはり東京都公文書館で見つかった。彼は Frederic B. H. Porter という 1877 年生まれ<sup>(ママ)</sup>の英国人として、芝区三

田の慶應義塾で学ぶため、明治 25 (1892) 年 6 月 1 日から明治 28 (1895) 年 5 月末まで寄宿舎への居住を許可されていた<sup>7)</sup>。重隆が慶應義塾に進学したからこそ、ポーターは函館から上京し、三田からそう遠くない南小田原町に家を建てさせたとも考えられる。ポーターの臨終には重隆も立ち会うことができたのではないだろうか<sup>8)</sup>。なお、ふたりの息子たちの名に記された「B. H.」は、姉の Isabel<sup>9)</sup>と同じミドルネーム「Blakiston Hakodate」(P 文献 4、5) を示すとみて間違いない。

## ■ 出自

ポーターの出自について簡単に触れておく。父親はジョーゼフ・トマス・ポーター Joseph Thomas Porter といい、1772 年にイタリア (トスカーナ大公国) のリヴォルノ Livorno [Leghorn] に 3 人兄弟のひとりとして生まれた。その父は当地に移住した英国人商人、母はイタリア女性である (母は一説には詩人 Alexander Pope の遠縁。ポーターの名付けはこの縁に由来するものか)。ジョーゼフはローマのイングリッシュ・カレッジ (英国人向けカトリック神学校) に進み、1795 年にカトリック司祭の叙階を受けた。18 か月間ローマの神学校で教鞭を取ったのち、1796 年に英国に渡る。リンカーンズ・イン・フィールズ Lincolns Inn Fields のチャペル付司祭を経て、1810 年までエセックス州ウェストハム West Ham で学校を経営した。

当時のイングランドにはまだ宗教的な自由はなく、非国教徒は社会のさまざまな面で差別されていた。ローマを去って、カトリック教徒がまだ十分な権利を得ていない土地に来たジョーゼフ師の働きには大きな困難がともなっていると推測される。

結局彼はカトリックの信仰を放棄し、1812 年に英国ハンプシャーの港町ポーツマス Portsmouth でアン・エリオット Ann Elliott という女性と結婚、ほどなくソールズベリに落ち着いた。生まれた 8 人の子どもたち (2 組は双生児) は、全員イングランド国教会の洗礼を受けている。

ジョーゼフ師は改宗後も聖職者を示す「Rev. (Reverend)」の敬称を生涯その名に冠したが、結婚後に聖職として働いた形跡はない<sup>10)</sup>。司祭として受けた古典教育を活かして私塾を経営した。特に数学とイタリア語に秀で、イタ

リア語文法の著作がある。発明家・科学者としても知られ、自然科学に関する講演も行った。5男にあたるアレクザンダー・ポープ・ポーターの基礎教育も、父ジョーゼフが授けたのだろう。ジョーゼフ師は1839年、ポーター16歳のとき亡くなった<sup>11)</sup>。

## ■来箱以前

さて、来箱6年目にあたる1865年、ポーターは箱館で領事裁判を起こした。船長（master mariner）の資格と海事検査人（marine surveyor）としての能力を箱館在住のデンマーク人商人から疑われ、名誉を毀損されたとして裁判に訴えたのである。そのとき彼が提出した上申書<sup>12)</sup>および他の同時代資料をもとに、来日前の動きを見ていこう。

初めて海に出たのは1837年（14歳）。1842年（19歳）にはインド及び中国方面への航海に出た。1845年（22歳）を最後に英国には戻らず、インドのボンベイを拠点にしたようだ。1851年にマラッカ海峡で沈没したP&Oの蒸気船Pacha号の引揚げ事業<sup>13)</sup>に乗り出したが、不成功に終わり、1852年（29歳）に香港へ移った。1856年（33歳）には上海に移動し、Imperial Maritime CustomsのAssistantとなった（1859年版香港*Directory*）。また、1855年5月に香港、1858年4月に上海でフリーメイソンの会員になっている<sup>14)</sup>。1859年にデント商会の代理人として来箱したことは前述のとおりである（代理人は1864年まで。図2-a）。

中国時代に船長として指揮したことが確認できた船を3艘<sup>15)</sup>挙げておく。1、英船籍のスクーター Island Queen号（230t）、1854年に香港からオーストラリアのシドニーへ向かい、帰路にエンデバー海峡で沈没した（乗員は全員救出）。2、ペルー船籍のブリッグ Clarita号（158t）、1856年にペルーのカヤオから香港へ（往路は別の船長）。3、英船籍のバーク Wellington号（472t）、1857年に香港から上海へ。前述の領事裁判の記事によると、香港と広東を結ぶ蒸気船の航海士を勤めた時期もあったようである。

英国では1850年の商船法により、外国貿易に従事する船長・航海士は資格証明書の取得が義務となった<sup>16)</sup>。だが、ポーターは英国商務省（Board of Trade）の発行した免状を所持していない。1845年に故国を離れてから、試

福士成豊の雇い主・箱館の商人アレクザンダー・P・ポーターの生没年月日、および来日前の履歴

験を受ける機会がなかったためだ。代わりに南米ペルーで試験を受けて船長資格を得たが、証明書類はすべて1860年の火災で失ったという。1874年、ペルー代理公使エルモアレ J. F. Elmore がポーターの要望に応じて彼の船長資格を保証する手紙<sup>17)</sup> (P 文献5) を書いたのはこのためだ。

ポーター一族の男性には、父方・母方ともに Surgeon (外科医) が多い。幼死した兄を除く兄弟全員がその職に就いたなかで、なぜ彼だけが船員となって英国を離れたのか。この疑問については、今後の資料の発見を待ちたい。

最後に、船員登録記録にある22歳当時の人相書きを紹介しておく。身長5フィート8インチ(約173センチ)、髪はダークブラウン、瞳はブラック、肌色は明るめ (Fresh)。

**NOTICE.**  
**T**HE Undersigned has established himself  
at this Port as *Merchant, Commission*  
*Agent, Ship Broker, &c.*  
**ALEX. P. PORTER,**  
*Late Agent for Messrs. Dent & Co.*  
**4my-65 534 Hakodadi, 1st Nov., 1854.**

**A. P. PORTER.**

**Commission Merchant, General Agent, Marine  
Surveyor and Druggist, Vendor of Patent  
Medicines, &c., &c.**

図2 上 (a) デント商会から離れて、商人、仲買人、船舶仲買人 (Merchant, Commission Agent, Ship Broker) として独立したことを示す告知。1864年11月12日から翌年5月16日まで、*North-China Herald* の1面広告欄に掲載された。

下 (b) 1893年版 *Japan Directory* (Hakodate セクション) における、ポーター最後の記載。医薬品販売も手がけていたことがわかる。

ポーター主要文献（本文中「P 文献」と示したもの。刊行年順）

1. 森中章光「アレキサンダー・P・ポーターのこと」『新島研究』53号、同志社新島研究会、1978年、pp.37-41.
2. 手塚竜磨「アレクサンダー・P・ポーターの墓」『The Doshisha Times』349号、1982年7月15日、p.2（『頂きに想う——随想と論考』私家版、1984年、pp.113-16）
3. 新島八重子「亡愛夫襄発病ノ覚」『同志社談叢』10号、同志社社史資料室、1990年、pp.79-80.
4. 千代肇「ポーター商会の盛衰と函館商業経済 A・P・ポーターと子供達を追って」『同志社談叢』12号、同志社社史資料室、1992年、pp.214-36.
5. 西島照男『函館港長に何があったか——お雇い英国人の悲運』北海道新聞社、1992年

#### その他の文献

函館市中央図書館デジタル資料館『応接書上留』『函館市史』

北海道立文書館 箱館奉行所文書

北海道大学附属図書館北方資料室所蔵ポーター書簡

斎藤與一郎『函館歴史エッセイ 非魚放談』幻洋社、1988年（底本は1957年刊）

元木省吾『北方渡来』時事通信社、1961年

ヘルベルト・ブルチョウ『外国人が見た十九世紀の函館』武蔵野書院、2002年

『はこだてと外国人居留地 人物編 官から商人の街へ』はこだて外国人居留地研究会 2014年

中国および日本で刊行された *Directory* と英字新聞（主に *North-China Herald*、*The China Mail*、*Japan Weekly Mail*）

#### 注

- 1) The National Archives of the UK 所蔵：Merchant seamen registers 1835-1857, Series BT 113, Piece number 16, Register Ticket No.30, 911（閲覧：FindMyPast）
- 2) 東京都公文書館所蔵：公開件名「イギリス人埋葬の件通達案 青山共葬墓地管理者宛 イギリス人アレキサンダー、ピー、ポーター」、請求番号：620.D 7.18（図1）
- 3) 同館所蔵：公開件名「青山、谷中、染井内国人墓地中外国人埋葬表（等級）中等（区数）1坪（地号）北第21号（引受人）京橋区南小田原町4丁目6番地北海道平民清水重光（埋葬人）イギリス人アレキサンダー、ピー、ポーター労衰兼下痢

福士成豊の雇い主・箱館の商人アレクザンダー・P・ポーターの生没年月日、および来日前の履歴

病（埋葬年月）明治 26 年 11 月 18 日正午 12 時」、請求番号：604.D 6.19

- 4) 同館所蔵：公開件名「清水重光清国人人家屋貸渡届」、請求記号：620.D 8.08（注：「清国人」は目録のママ。実際の届けには「外国人」とある）
- 5) 同館所蔵：公開件名「京橋区南小田原町 4 丁目 6 番地所在 新築 京橋区南小田原町 4 丁目 6 番地居住清水重光 明治 26 年 10 月 20 日」、請求記号：601.B 5.12
- 6) General Register Office, England 所蔵：1893 年 12 月 12 日に British Vice Consulate at Tokio <sup>(ママ)</sup> が受理した Alexander Pope Porter 死亡届の写し。
- 7) 東京都公文書館所蔵：公開件名「慶応義塾ヘイギリス人アレキサンダー・ポーター長男寄宿の件」、請求番号：619.D 5.09
- 8) 日本に居住する主な外国人の名前を記した *Japan Directory* において、ポーターの名が見えるのはすべて函館のセクション、1893 年版が最後である（図 2-b）。貸家届により 1893 年 9 月には南小田原町にいたことがわかったが、離函の時期を特定できるような資料の発見には至っていない。また、当時 20 歳だった長男重光が東京に家を建てる資金を得た手段についても不明であるが、1892 年にポーターは函館外国人居留地の永代借地権を譲渡して大金を手に入れている（P 文献 5、pp.201-203）。これにより、次男重隆の慶應義塾進学と、築地の新居建築が可能となった可能性がある。

なお、卒業生名の記載がある『慶應義塾総覧』明治 41 年および 44 年分（国立国会図書館デジタルコレクション所収）を確認したが、Porter あるいは清水重隆の名前は見当たらなかった。その後の清水重隆については、近年デジタル化が進んだ台湾の同時代アーカイブ（臺灣總督府職員録系統、國史館臺灣文獻館ほか）に名前を見出すことができる。ただし「P 文献 4」にある記述とは整合性の取れない部分があるため、今後の検討が待たれる。

- 9) ポーターの長女で 1871 年頃に生まれたイザベル Isabel Blakiston Hakodate Porter がいつ日本を離れたのかははっきりしない。ポーターの親友だったトマス・ブラキストンの妻が英国に送り届けたという推論もあったが（P 文献 5、pp.212-14）、ブラキストン夫人エミリー Emilie Blakiston (1824-1879) の離箱と帰英は 1865 年であり（*North-China Herald*, 23 Sep 1865, p.150; *London and China Telegraph*, 11 Nov 1865, p.585）、この説は成り立たない。だが、1885 年 8 月に横浜から香港経由で英国に向かった船の旅客名簿に Miss Isabel Porter の名前があった（*Japan Weekly Mail*, 08 Aug, 1885, p.146; *Overland China Mail*, 13 Aug 1885, p.1）。これが彼女であるなら、15 歳で離日したことになる。1891 年にはワイト島在住の伯母のもとに身を寄せていたことが国勢調査から確認できた。イザベルは 1895 年に英国人 John Brownlow King と結婚して、ニュージーランドに移住した。なお、



- 彼女のファーストネームは結婚証明書（P 文献5、p.12）と国勢調査では Isabel だが、英国紙の結婚告知には Isabella とあり、後者はポーターのイタリア人祖母、そして双生児の妹の名と同じである。
- 10) したがって、拙論「セイヴォリー船長と箱館の商人ウィルキー」『新島研究』111号、2020年、p.105において彼の父親を「国教会司祭」としたのは誤り。「元カトリック司祭」に訂正する。ただしジョーゼフ師は自らの職業を「Clerk」と記し、一家はソールズベリ大聖堂の境内（The Close）に居住していたことから、大聖堂のなんらかの仕事に関わっていたとみられる。
- 11) 同時代の追悼記事：*Salisbury and Winchester Journal* [Wiltshire, England], 15 Apr 1839, p.4.  
ジョーゼフ師夫人の家系：*A History of Our Family (Rogers of Westmeon) 1451-1902*, compiled from authoritative documents by Julian C. Rogers, London: Phipps & Connor, 1902.  
カトリック司祭ジョーゼフ師について：Godfrey Anstruther, *The Seminary Priests: A Dictionary of the Secular Clergy of England and Wales, 1558-1850*, Vol.4, Great Wakering: Mayhew-McCrimmon, 1969, pp.216-17.  
子孫 Robyn Ackers 作成の家系図：Joseph Thomas Porter—Facts, 〈<https://www.ancestry.com/family-tree/person/tree/102621618/person/400024473656/facts>〉, (accessed 29 Sep 2021)  
なお、イングランド国教会ポーツマス大聖堂 Portsmouth Cathedral (旧 St. Thomas Church) の内部に、ジョーゼフ師夫妻の名と永眠日を刻んだ記念碑が掲げられている。
- 12) *North-China Herald*, 09 Dec 1865, p.195. 上申書では、来箱が1859年だったこと、今後船長の仕事に戻る意思はほぼないことも述べている。なおこの記事において Clarita 号は Clereta と綴られている。
- 13) *Bombay Gazette* [Bombay, India], 26 Sep 1851, p.1; *The Straits Times* [Singapore], 17 Feb 1852, p.7; *Friend of India and Statesman* [Serampore, India], 14 Oct 1852, p.7 ほか。
- 14) Ancestry.com. England, *United Grand Lodge of England Freemason Membership Registers, 1751-1921* [database on-line].
- 15) 3艘とも、領事裁判記事に言及されている。*North-China Herald*、*Lloyd's List*、*South Australian Register*、*Straits Times* など、船名と船長の姓が併記された当時の新聞の船舶情報で確認。
- 16) Royal Museums Greenwich, *Research guide C2: The Merchant Navy*, 〈<https://www.>

福士成豊の雇い主・箱館の商人アレクザンダー・P・ポーターの生没年月日、および来日前の履歴

rmg.co.uk/collections/research-guides/research-guide-c2-merchant-navy-tracing-people-master-mariners-mates), (accessed 29 Sep 2021)

- 17) 北海道大学附属図書館北方資料室所蔵：「ポーター氏の船長経験についての証言(写)／ペルー代理公使エルモーレ(横浜)」, 1874.11.27、レコード ID: 0C03497000000000

## 付記

英国の公文書の閲覧には主に *FindMyPast* (<https://www.findmypast.co.uk/>) と *Ancestry* (<https://www.ancestry.com/>) を利用した。両サイト、ならびに他の歴史的新聞サイトで検索できる新聞バックナンバーにも多くを負っている。

国内の資料探訪には、とくに北海道大学北方資料データベース、北海道立文書館、東京都公文書館、国立国会図書館、および函館市中央図書館のお世話になった。

ポーター船長の子孫の方々にも多大な助力をいただいた。船員登録記録をご教示くださったオーストラリアの Ms Gaye Pickering、そしてポーターの両親の結婚証明書や死亡届、肖像写真の画像等を提供いただいたニュージーランドの Ms Robyn Ackers に心より感謝申し上げます。